

演習(看護師用)

4G

看護の目的・目標	長期目標 自宅退院 ADL:日常はADL自立(夜間や内容によっては見守り) 役割の継続:母親として家事が行える。趣味として買い物・コーラスに参加できる。 短期目標 移乗の自立 食べこぼしの軽減
----------	---

	看護介護 10か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	食事は食堂やデイルームに誘導し、経口摂取への取り組みを推進しよう	食べこぼしの軽減⇒食事時の声掛け。	
2	洗面は洗面所で朝夕、口腔ケアは毎食後実施しよう	洗面所で自分でできるようにする。	
3	排泄はトイレへ誘導し、オムツは極力使用しないようにしよう	便意・尿意のアセスメントと下着の選択を行い、セラピストと共有し、トイレ排泄自立に向けて取り組む。	
4	入浴は週3回以上、必ず浴槽に入れるようにしよう	元雄の生活に合わせ、自宅退院に向け、自宅の環境にあった入浴方法を評価し、OTと共有し、週3回以上の入浴を行う。 洗体動作の習得。	
5	日中は普段着で過ごし、更衣は朝夕実施しよう	FIM 3点。現在介助している。OTと協働し更衣の自立に取り組む。	
6	二次的合併症を予防し、安全対策を徹底し、可能な限り抑制は止めよう	転倒転落予防のためにセンサー使用。ナースコール指導し、移乗自立に向けて取り組む。	
7	他職種と情報の共有化を推進しよう		
8	リハ技術を習得し看護ケアに生かそう		
9	家族へのケアと介護指導を徹底しよう		
10	看護計画を頻回に見直しリハ計画に反映しよう		

その他	
-----	--

演習(看護師用)

5G

看護の目的・目標	歩行獲得し、自宅に退院、職場復帰
----------	------------------

	看護介護 10か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	食事は食堂やデイルームに誘導し、経口摂取への取り組みを推進しよう		移乗の見守りをしながら、左上肢の確認、デイへの移動可、食べこぼしが無いように補助具の提案、入院前の食生活
2	洗面は洗面所で朝夕、口腔ケアは毎食後実施しよう		毎回洗面所へ移動
3	排泄はトイレへ誘導し、オムツは極力使用しないようにしよう		尿意を確認しながら、トイレへ誘導、セラピストの協力を得ながらできる限りトイレ誘導をしていく
4	入浴は週3回以上、必ず浴槽に入れるようにしよう		介助での入浴は可能
5	日中は普段着で過ごし、更衣は朝夕実施しよう		できるところはやってもらい、できないところは介助する。リハビリの前後にやってもらう
6	二次的合併症を予防し、安全対策を徹底し、可能な限り抑制は止めよう		ベッド周囲の環境整備、センサーの使用、見えるところに張り紙
7	他職種と情報の共有化を推進しよう		担当者間の話し合い、目標の確認、カンファランス
8	リハ技術を習得し看護ケアに生かそう		自主訓練、デモンストレーション
9	家族へのケアと介護指導を徹底しよう		家族の希望を把握、励まし、退院後の協力、WEBでの面会、情報共有
10	看護計画を頻回に見直しリハ計画に反映しよう		頻回に見直ししていく

その他	
-----	--

演習(看護師用)

7G

看護の目的・目標	
----------	--

	看護介護 10か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	食事は食堂やデイルームに誘導し、経口摂取への取り組みを推進しよう		3食車椅子で積極的に食堂へ誘導。左軽度無視あり、食事時に食器の配置の工夫の援助も必要。
2	洗面は洗面所で朝夕、口腔ケアは毎食後実施しよう		車椅子利用し離床促していく。左口角の下垂があり、水分のこぼれがないかも確認していく。
3	排泄はトイレへ誘導し、オムツは極力使用しないようにしよう		年齢を考慮し、本人の意思を尊重し介入していく。N s コール時に誘導、下衣操作の介助は必要。動作確認する。
4	入浴は週3回以上、必ず浴槽に入れるようにしよう		本人のニーズに合わせて、入浴方法、介助方法の検討、在宅に近い形の検討、
5	日中は普段着で過ごし、更衣は朝夕実施しよう		本人の元の生活スタイルに合わせて、起床しできない部分の介助をする。訓練内での更衣練習も行ってもらおう。
6	二次的合併症を予防し、安全対策を徹底し、可能な限り抑制は止めよう		N s コールは押せているが、押せない時もあり。転倒防止するための安全な病室環境の検討
7	他職種と情報の共有化を推進しよう		
8	リハ技術を習得し看護ケアに生かそう		
9	家族へのケアと介護指導を徹底しよう		
10	看護計画を頻回に見直しリハ計画に反映しよう		

その他	
-----	--

演習 (PT用)

1G

理学療法の目的・目標		・移乗(車いす・トイレ)の自立 ・屋内外移動の獲得 ・車いす自走、生活の獲得	
	PT 5か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	筋力、関節可動性、姿勢バランスなどの運動機能を回復させよう		起立練習、LLB：ベッドサイド 麻痺側筋力、バランス能力、拘縮予防 自主訓練：ベッド上、平行棒 抗重力姿勢、シーティング 座位機能の向上 非麻痺側の筋力増強運動
2	全身の部位・状態などを観察し、不動による疼痛・虚血を予防しよう		車いす座位：アームレスト、上肢懸垂スリング 上肢の自己管理、装具の適合・管理 ベッド上、車いす座位のポジショニング ADLへ 足部の確認 (DM合併症)
3	呼吸・循環機能を高め、社会生活に必要な体力の向上を図ろう		離床時間の延長 荷物移動の耐久性 平行棒内歩行運動、座位時間の確保 車いす活動の時間の確保 (体力向上) エルゴメーターによる運動量の確保
4	課題にそった運動学習を促し、実地的な基本動作を高めよう		L字柵を用いた移乗練習 病棟内歩行練習、補助具の選定 靴着脱：バランス、リーチ 課題動作の反復練習 病棟生活への反映 上肢運動機能
5	ADLの自立に向けて運動療法、物理療法などを駆使しよう		温熱療法、ストレッチ 電子刺激療法、BWSTT 装具を用いた運動療法
その他	・職場の仕事内容、運転の確認 ・自宅環境の確認		

演習 (PT用)

2G

理学療法の目的・目標	屋外杖+装具歩行自立 職場復帰	屋外杖+装具歩行自立
------------	--------------------	------------

	PT 5か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	筋力、関節可動性、姿勢バランスなどの運動機能を回復させよう	麻痺側下肢・体幹の強化 座位バランス強化	筋緊張の調整 長下肢装具を使用した立位、歩行訓練
2	全身の部位・状態などを観察し、不動による疼痛・虚血を予防しよう	車椅子での離床	麻痺側の自主トレ 擦過傷の確認 ポジショニング
3	呼吸・循環機能を高め、社会生活に必要な体力の向上を図ろう	車椅子での離床	起立練習自主トレ
4	課題にそった運動学習を促し、実地的な基本動作を高めよう	座位でのリーチ動作	麻痺側の随意性の向上 病棟でのADL訓練 自己にて清しきでできるように座位の安定性向上
5	ADLの自立に向けて運動療法、物理療法などを駆使しよう		階段昇降等のADL練習 HAL、ウェルウォーク 電気刺激によるフィードバック

その他	職場まではバスを利用。
-----	-------------

演習 (PT用)

3G

理学療法の目的・目標	移乗動作の獲得 立位姿勢の改善 基本動作能力の向上	基本動作(見守りから軽介助) 車椅子または歩行での移動獲得
------------	---------------------------------	----------------------------------

	PT 5か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	筋力、関節可動性、姿勢バランスなどの運動機能を回復させよう	ROMや神経筋再教育など実施しつつ運動療法中心に動作から機能向上を図る 座位や立位による立ち直りなどのバランス練習 麻痺側の感覚入力	身体機能の向上() 立位歩行練習 高次脳機能障害を含めた予後予測
2	全身の部位・状態などを観察し、不動による疼痛・虚血を予防しよう	運動療法中心に動作から機能向上を図る 麻痺側の自動運動など麻痺側への認知強化 スキンケア (上下肢装具の使用も検討)	運動療法中心に動作から機能向上を図る 麻痺側の自動運動など麻痺側への認知強化 スキンケア (上下肢装具の使用も検討)
3	呼吸・循環機能を高め、社会生活に必要な体力の向上を図ろう	運動療法中心に動作から機能向上を図る 離床時間の拡大(余暇活動の検討) バイタルなど確認しつつ負荷量の調整 病棟での自主トレーニング	運動療法中心に動作から機能向上を図る 離床時間の拡大(余暇活動の検討) バイタルなど確認しつつ負荷量の調整 病棟での自主トレーニング
4	課題にそった運動学習を促し、実際的な基本動作を高めよう	運動療法中心に動作から機能向上を図る バランス練習 起立練習 立位練習 車椅子自走、安全操作などの環境調整	運動療法中心に動作から機能向上を図る バランス練習 起立練習 立位練習 車椅子自走、安全操作などの環境調整
5	ADLの自立に向けて運動療法、物理療法などを駆使しよう	高次脳機能障害による危険行動を病棟に共有 歩行練習による歩行機能改善(装具作成の検討) 車椅子などの環境調整 低周波治療器などの物理療法	高次脳機能障害による危険行動を病棟に共有 歩行練習による歩行機能改善(装具作成の検討) 車椅子などの環境調整 低周波治療器などの物理療法

その他	
-----	--

演習 (PT用)

4G

理学療法の目的・目標	車椅子からベッド・トイレ移乗の自立、トイレ動作が見守りで可能となる	・起居・移乗・車椅子駆動が見守りで可能となる ・麻痺側の管理、関節可動域確保、筋出力向上、離床・持久力の確保、転倒予防をすすめる
------------	-----------------------------------	---

	PT 5か条	専門職としての実施内容（初めの2週間）	
		自分の意見	グループの意見
1	筋力、関節可動性、姿勢バランスなどの運動機能を回復させよう	麻痺側への感覚入力を姿勢変換や視覚的FBを用いながら行い、立位バランスの向上をはかる	バランス機能低下の原因探る 関節可動域（特に足関節背屈・股関節伸展）確保、麻痺側促進筋力向上、非麻痺側の過剰努力予防 基本動作を通した運動能力向上、端座位練習
2	全身の部位・状態などを観察し、不動による疼痛・虚血を予防しよう	麻痺側の関節可動域の向上を促す、非麻痺側の過剰努力による可動性低下を予防する	血圧変動確認、疼痛評価 シーティング、ポジショニング 肩の亜脱臼予防 皮膚状態の確認
3	呼吸・循環機能を高め、社会生活に必要な体力の向上を図ろう	糖尿病、高血圧による症状に対するバイタルサイン、自覚症状などをチェックしながら、日中離床して過ごせる体力をつける	バイタルサインに応じて離床 積極的に歩行練習を進める 日中の運動機会確保
4	課題にそった運動学習を促し、実際的な基本動作を高めよう	注意障害、左半側空間無視に留意して、実際の病棟環境下での動作練習を進める 立ち座り練習など病棟でもできる運動の評価・導入	ベッド周辺動作確認、基本動作練習、離床促進 麻痺側管理促進 ステップ練習
5	ADLの自立に向けて運動療法、物理療法などを駆使しよう	麻痺側上下肢に対する電気刺激やロボットリハの活用	基本動作・車椅子駆動など実際の動作を確認して看護・介護スタッフと情報共有 KAFOによる立位歩行練習 低周波機器の活用 装具：KAFO→最終的にはプラスチック型AFO（タマラックなど）

他の	・長期ゴールの予測としては比較的前後良好、早期より本人・家族と退院後のイメージを共有する ・目標：装具を使用し屋外歩行自立レベル、家庭内の役割を一部果たすことができる、まずは家族の協力のもと買物に行くことができる
----	---

演習(OT用)

OT3班

作業療法の目的・目標	3か月目標 ・自宅で、転倒なく、安全に暮らせてセルフケアなど、自分でできるように。 ・家事動作、車の運転→バスにて社会活動へ 2週間目標 ・車いす上でできるADL獲得 ・着替えと更衣 ・車椅子駆動を目標
------------	--

	OT 5か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	ADL・IADLの実施状況を評価・介入し、生活機能向上につなげよう		・ADLの評価を行い現状能力の確認をする。 ・本人は自分ができているかを評価をしてアプローチする。 ・評価、訓練を病棟中心に行うことが大事になってくる。 ・トイレでの動作が中程度介助のため、トイレの動作確認。車いす移乗の確認を行う。 ・興味関心チェックを行い趣味の聴取を行う。
2	生活行為に活かせる身体機能/操作機能の改善・獲得に取り組もう		・手洗いなどが生活面で取り組みやすいため、顔洗いなど促したい。基訓練 ・危険の認識をあげて行くことを大事で、バランス訓練などして気づきをしていただきたい。 ・上肢の可動域が可能なのか、促通など行って、座位保持の訓練など。 ・右手の参加、手洗いなどを病棟と連携をとっていく ・ブレーキの止め忘れが無い。手洗いなどの参加。
3	認知・行為、心理的側面を包括的に捉え、その人らしい生活の実現を援助しよう		・本人のニーズを元に提供していく。 ・注意障害、販促空間無視などあるので販促空間無視などの訓練が必要。 ・病気についてどう思っているか、今後のうつ状態など評価。 ・自宅へ帰るために必要な能力段階の説明を行う。
4	自助具や福祉用具を駆使し、対象者を取り巻く環境を調整することで生活機能を充実させよう		- 車いすの左ブレーキを延長したい。環境調整、食事は左のお椀を持たないのであれば滑り止シート。お椀の形状変更。食事形態の検討。 ・洗体動作でループ付きのタオルなど選定必要。 - 整容動作での歯磨き粉クリップなど必要。 ・車いすのブレーキ忘れが内容にする。 - 絞って混乱がないようにしていく。 ・車いすのブレーキパー、滑り止めマット、トイレの手すり選定など。
5	地域生活の拡大・充実(再建)に向けて個別性のある支援を行おう		・社交的だったため、社会への参加が大事なので自宅ですか。社会的手段をとるか。 ・復職への希望があるのかどうか？本人と相談が必要。 ・無視、自動車運転の再開も視野に入れる。 ・趣味的活動や仕事への手段を心身機能の回復程度にて検討行う。

その他	
-----	--

演習(ST用)

1G

言語聴覚療法の目的・目標	発話明瞭度改善を目指す 高次脳
--------------	--------------------

	ST 5か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	コミュニケーション機能の改善をはかり、意思疎通の向上に努めよう	コーラス教室に通っていたこともあり軽度構音障害に対してのニーズも高いことも考えられるため、本人の希望に沿ったアプローチをおこなう	目標設定 ご家族からの病前の発話についての聴取・評価 構音障害についての直接的なアプローチ
2	生活の場でコミュニケーション環境の調整を行い、社会参加を促そう		病前行っていたコーラス教室再開への関り 病棟場面でのコミュニケーションにんして病棟スタッフとの共有をおこなう。
3	摂食嚥下機能を高め、経口摂取を目指そう	嚥下機能としては良好であるため、食べこぼしや食べ残し(USN)の気づきを深める声掛けや、鏡の設置をし、気づきの頻度が増えるように働きかける	口角からの食べこぼしに対してアプローチをおこなう。
4	その人らしい食のあり方を提案し、安全で安心な食事のあり方を提示しよう	在宅復帰後も本人が食事をつくる役割になると仮定し、毎日の病院食(減塩食)のメニューの振り返り等行う。	
5	高次脳機能障害を評価し、生活の再構築に向けた介入をしよう	注意機能低下していることもあり、他のリハや生活場面でのエラーや注意点の見落としをピックアップする。 自動車運転：麻痺があるため身体機能・USN等の高次脳機能評価をおこなう。3ヵ月での回復期間をみこして、難しければ退院時や外来等での再開への支援を行う	高次脳機能障害に対しての評価をおこなう。 身体機能を含めた家事動作等の遂行等が可能なかの評価 本人の障害理解への評価

その他	
-----	--

演習(ST用)

ST2グループ

言語聴覚療法の目的・目標	1. コミュニケーション面: ご家族との関わり(電子機器の使用)のなかで病態に気づけるように促していく。2. 食事場面: 食べこぼしや、付着に気づけるように促していく。3. 高次脳機能機能面: 発話、食事における注意、空間認識の向上
--------------	--

	ST 5か条	専門職としての実施内容 (初めの2週間)	
		自分の意見	グループの意見
1	コミュニケーション機能の改善をはかり、意思疎通の向上に努めよう	対人コミュニケーションに必要な、指導方法と病棟でも使える、会話環境の設定。訓練と並行し。	構音障害の改善、明瞭度低下への気付き。口部顔面の運動、感覚入力。
2	生活の場でコミュニケーション環境の調整を行い、社会参加を促そう	会話できる環境の設定。訓練場面以外。携帯などの電子機器の使用など。ご家族との会話など。	本人からの聞き返しの指導。病棟スタッフからの配慮。発話に対して知的な機能へのアプローチ(注意機能の向上) 電子機器を使用し社会参加への準備
3	摂食嚥下機能を高め、経口摂取を目指そう	間接嚥下訓練。顔面のリラクゼーションの実施。食べこぼしの軽減。	見た目への考慮。感覚も含め。嚥下訓練。顔面のリラクゼーションの実施。食べこぼしの軽減。
4	その人らしい食のあり方を提案し、安全で安心な食事のあり方を提示しよう	食べこぼしの軽減。食事方法の指導、鏡等の使用	退院後のフォロー(顔面、口腔)、調理などOTと協力しできることの検討。家事動作など遂行機能の評価。食事場面で左上肢への促し。栄養管理(栄養士協力)
5	高次脳機能障害を評価し、生活の再構築に向けた介入をしよう	病識理解。分配性注意に対する訓練。麻痺側の使用ができれば、両手で実施(二重課題、空間認知課題など) 麻痺側の管理(身体失認)	機能改善(空間無視、注意障害) 障害への気づき。病状への理解の促し。退院後の生活へのアプローチ。活動の自立度アップ。食事や発話場面での高次脳に対する働きかけ。阻害要因の排除。

その他	
-----	--